

BCP 策定に向けた取組のご紹介

令和元年度中小企業経営バックアップ事業 BCP 策定支援業務報告書(概要版)

BCP 策定していますか？

BCP とは、事業継続計画（Business Continuity Plan の略）のことです。
災害などリスクが発生した際に、重要業務が中断しないように、いち早く重要な業務を復旧させる計画のことです。

平常時から事業継続について

戦略的に準備しておくリスクマネジメントのひとつ

事業を取り巻く様々なリスク（脅威）



家畜伝染病



伝染病
感染症



自然災害



テロリズム



情報セキュリティ
事故



サプライチェーン
の途絶

BCP と防災計画では目的が異なる

防災計画		BCP（事業継続計画）
人命や財産の保護	目的	事業の継続 (人命や財産の保護を含む)
自然災害、伝染病、家畜伝染病	対象とする脅威	事業に影響を及ぼすあらゆる脅威
被害が想定される地域や施設	適用範囲	事業 (製品、サービス、組織、拠点、取引先等)
死傷者数、物理的被害	有効性評価	復旧時間、事業への影響

BCP 策定により期待できる効果

- ◆ 従業員のリスクに対する意識の向上
- ◆ 各業務の手順等を見直すことで、業務の改善・標準化・効率化が進む
- ◆ 事業の優先順位が明確になる
- ◆ 顧客や取引先、協力機関との関係性の強化
- ◆ 従業員の安心感・信頼感が向上し、定着につながる
- ◆ 企業の存続による競争力の確保
- ◆ CSR(企業の社会的責任)や SDGs の取組推進にもつながる 等

BCP 策定に取り組んだ企業

株式会社 建設技術コンサルタンツ

所在地、業種

鹿児島市、設計・測量・調査・施工監理

BCP 策定のきっかけ

以前から、自然災害等の備えとして BCP 策定を検討していた。

当社は公共施設やインフラ設備の設計・維持に関わる業務を担っており、BCP 策定は必須であると考えた。

BCP 策定の効果

自社の重要業務という観点から業務を改めて見直すことで、役割の再確認が図れ、社員の多能工化に取り組むきっかけになった。また、協力会社や取引先との関係維持に向けた取組の推進につながった。

今後の BCP の活用方法

業務グループ毎にロールプレイを実施し、緊急事態における役割の確認に活用したい。社員及びその家族やお客様、そして地域住民の安全安心を守れる組織（人材）を目指して、訓練を行い、企業価値を高めたい。



サツマ酸素工業 株式会社

所在地、業種

鹿児島市、ガス販売供給等事業

BCP 策定のきっかけ

当社の顧客には医療関係施設があり、ガス供給が途絶えると生命に関わる仕事を担っていると考えている。自然災害等の緊急事態においても、事業を継続させ供給責任を果たすため BCP の策定が必要と考えた。

BCP 策定の効果

業務プロセスの分析を行い、緊急事態時の事業の継続もしくは早期に復旧させる対策を立案できた。策定にあたっては社内幹部と現場関係者の意見交換を行い、業務の重要性が認識でき、事業継続への意識が高まった。

今後の BCP の活用方法

緊急事態においても事業が継続できる会社（組織）であることを従業員や顧客にも知って頂き、安心して信頼できる関係性の構築に役立てたい。



株式会社 下堂園

所在地、業種

鹿児島市、緑茶製造・問屋業

BCP 策定のきっかけ

近年の自然災害による企業の被害状況や対応を見ていて、社員の安心や取引先の信頼を守り、供給責任を果たすために BCP の必要性を感じた。

BCP 策定の効果

想定される自然災害をイメージして、業務工程や生産拠点等の見直しに取り組むことで、リスクの所在が把握できた。緊急事態において事業を継続するための社内体制や社員、取引先への連絡手段等の整備ができた。

今後の BCP の活用方法

全社員へ BCP を浸透させ、緊急事態に遭遇した際、一人ひとりが役割を理解し、事業継続に向けて行動できる組織と人材育成に活用したい。また、事業継続への取組を、取引先との関係性強化に活かしたい。



株式会社 久永

所在地、業種

鹿児島市、IT システム機器卸売・管理業



BCP 策定のきっかけ

SDGs 経営として防災・減災のまちづくりへの貢献を目指し、CSR の観点から社員の「安全配慮義務」を考えなければならぬと策定した。

BCP 策定の効果

社員一人ひとりの BCP に対する知識が深まり、普段でも防災等に対する意識が高まった。

今後の BCP の活用方法

平常時では、社内設備の点検や取引先等との情報交換に活用し、非常時では BCP 発動体制として、必要な情報収集、連絡、周知、安全確保等を実施するために活用する。

株式会社 南九州デジタル

所在地、業種

鹿児島市、精密機器販売業

BCP 策定のきっかけ

2019 年の BCP セミナーを受け、当社のできることは何かと考えたことが策定のきっかけになった。

BCP 策定の効果

プロジェクトチームを立ち上げ、BCP に対する共通認識ができた。また、従業員も非常時には何をすべきか、意識を持つことができた。自然災害時を想定したものを策定したが、リスクに対する意識が深まっていたことで、ウイルス対策としての応用も図れた。

今後の BCP の活用方法

防災用品をインターネット通販で取り扱い、防災情報を発信し、案内するとともに、有事の際の備蓄品としても活用し、近隣地域への貢献まで広げていければと考えている。

BCP 策定までの流れの一例

気づき

- ◆セミナー等への参加
- ◆取引先からの要望依頼
- ◆支援機関の個別訪問 等

相談

- ◆支援機関への策定相談
例：(株)九州経済研究所
金融機関、各支援機関 等

策定

- ◆専門家派遣事業(かごしま産業支援センター)の活用
- ◆中小企業経営バックアップ事業費補助金の活用
- ◆BCP の見直し改善 (BCM の運用)

中小企業経営バックアップ事業について

(1) BCP 普及・啓発セミナー（令和元年度の開催内容）

1 講義 <small>13:10~14:00</small> BCPIについて知りたい学びたい BCPの概要・必要性 BCPへの理解の向上及び策定の動機づけ BCPの一般的な概要に加えて、鹿児島県の災害情報を踏まえたBCPの意義や必要性を説明する。また、BCPをつくる上での考え方やポイント、BCPの経営上のメリットと有効性について分かりやすくお伝えする。 <small>【講師】</small> 有限会社園田経営リスク研究所 代表取締役 園田 恭久氏	2 事業紹介 <small>14:10~14:50</small> BCPIに取り組んでいる会社について知りたい BCP策定の現状 BCP策定に向けた取組み事例 BCP策定に向けた課題の共有と取組み事例の周知 昨年度セミナー後のBCPIについての取組状況を伝える。また、BCPを策定した事業者について、取組み事例を紹介する。 <small>【講師】</small> 株式会社九州経済研究所	3 策定演習 <small>15:00~15:50</small> <small>質疑応答15:50~16:00</small> 実際に作ってみましょう!! BCP入門編書式を活用した策定演習 BCP策定までのイメージ形成と機運の醸成 中小企業庁が提示するBCP入門編書式を利用して、BCP策定の手順やポイントについて説明し、作成演習を実施する。 <small>【講師】</small> 有限会社園田経営リスク研究所 代表取締役 園田 恭久氏
--	---	--



有限会社園田経営リスク研究所 代表取締役 園田 恭久氏

- ・情報通信関連企業の創業を経て、有限会社園田経営リスク研究所を設立。現在、独立行政法人中小企業基盤整備機構九州本部事業承継コーディネーター、中小企業大学校講師を兼ねる。
- ・専門分野は、事業承継、後継者育成支援、経営革新支援、知的資産経営を活用した経営戦略構築支援、BCP・BCMを含むリスクマネジメント構築支援等。

参加費
無料

2会場で
開催

開催地域	鹿児島市	鹿屋市
開催日	令和元年7月17日（水）	令和元年7月16日（火）
参加人数	103名	34名
当日の様子		

(2) 中小企業経営バックアップ事業費補助金について

県では、BCP策定に取り組む中小企業者に対し、策定に要する経費の最大2分の1を補助する補助制度を準備しております（1社あたり上限500千円）。

令和2年度の公募等の詳細につきましては、以下の〈お問い合わせ先〉までご連絡ください。

〈お問い合わせ先〉

鹿児島県 商工労働水産部 中小企業支援課

TEL : 099-286-2951 FAX : 099-286-5576

Mail : shien@pref.kagoshima.lg.jp

（令和2年度より経営金融課から課名変更）

※この冊子は、令和元年度中小企業経営バックアップ事業の報告書概要版として作成されたものです。